

では、今宵の恐怖劇を
始めよう

銀粉

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

なんかふと天啓が降りて来たので書いてみた

勢いで書いたから、矛盾してても知らぬ知らぬ聞こえぬ見えん！

目次

では、今宵の恐怖劇を始めよう | 1

では、今宵の恐怖劇を始めよう

これは、記憶するまでもない事だ。

——君には、僕たちの娯楽の為に転生をしてもらおう——

かつて、私の身に起きた現実離れした出来事。

——まあ、創作物が溢れている世の中だしね。分かるだろう？——

誰かの言葉を借りる程の知識も残ってはいない。記憶がかなり飛んでいるのだ。私が、痴漢だと叫ぶクソ女に線路に突き飛ばされ、そのまま轢かれて死んだ時に。

——だから分かるかも知れないけれど、所謂チートという物を3つ、選ばせてあげよう——

自分の名前も、家族も、友人の記憶も欠損している私だけれど、自分が主人公の様に活躍なんて出来ないという確信だけ胸にあった。

——君の行く先は、Re：CREATORSの世界だ。無限の剣製でも、王の財宝でも好きなものを選ぶといい——

神、と名乗るこの霧が例に出したものは、確かに素晴らしいチートなのだろう。だけど、全く惹かれない。ボロボロの記憶でも心に焼き付いた、あの作品の熱には遠く及ば

ない。

ならば、私が望むことは……

「今、覚えている記憶を全て、2度と忘れない様にしてください」

——引き受けた——

「向こうの世界で、平均的な容姿にしてください」

——引き受けた——

「向こうの世界で、『Dies irae』を大ヒットさせてください」

——くっ、くっ、引き受けた——

新たな世界で、再びあの熱を、素晴らしき厨二具合を感じられないなんて嫌だ。何がなんとしても、味わってやる。そんな願いのカケラを抱きながら、私の意識は暗闇に落ちていった。

◇

転生してからはや十数年間。学生の身である私は、転生前の知識で情報をかき集め、原作開始日にあの駅の前に来ていた。

上空で戦闘を繰り広げる、セレジア・ユピテリアとアルマイル。忘れる事のできない記憶の片端に残る、アニメの映像と同じ光景。

けれど現実、その2人の上に黄金の陣が浮かんでいた。そして朗々と、聞き間違え

ようもない詠唱が響いてくる。

怒りの日 終末の時 天地万物は灰燼と化し

Dies irae, dies illa, solvet saeculum in favilla.

ダビデとシビラの予言のごとくに砕け散る

Teste David cum Sybilla.

たとえどれほどの戦慄が待ち受けようとも 審判者が来たり

Quantus tremor est futurus, Quando judex est venturus,

厳しく糾され 一つ余さず燃え去り消える

Cuncta stricte discussurus.

我が総軍に響き渡れ 妙なる調べ 開戦の号砲よ

Tuba, mirum spargens sonum Per sepulcrum aegionum,

皆すべからく 玉座の下に集うべし

Cogent omnes ante thronum.

彼の日 涙と罪の裁きを 卿ら 灰より 蘇らん

Lacrimosa dies illa, Quaresurget ex
avilla

されば天主よ その時彼らを許したまえ

Judicandus homo reus Huic ergo parce,
Deus.

慈悲深き者よ 今永遠の死を与える エイメン

Pie Jesu Domine, dona eis requiem. Ame
n.

この駅前も、アニメの時の様な空気には包まれていない。アルマイルも、セレジア・ユ
ピテリアでさえも動きを止めている。

そうだろう、そうでなくてはいけない。私がああ神へ願ったお陰で、世界レベルで大
ヒットした『Dies irae』の承認力は、他の作品なんかとは桁違い……前世で
いうならドラえもんレベルにまで格上げされている。故に、生の獣殿がおいでなさる確
率は100%なのだ。

海は幅広く 無限に広がって流れ出すもの 水底の輝きこそが永久不変

Es schaemt das Meer in breiten Fluesen
Am tiefen Grund der Felsen auf,

永劫たる星の速さと共に 今こそ疾走して駆け抜けよう

Und Fels und Meer wird fortgerissen
I ewig schnell em Sphaerenlauf.

どうか聞き届けてほしい

Doch deine Boten,

世界は穏やかに安らげる日々を願っている

Herr, verehren Das sanfte Wandeln dein
es Tags.

自由な民と自由な世界で

Auf freiem Grund mit freiem Volke ste
hn.

どうかこの瞬間に言わせてほしい

Zum Augenblicke duerft ich sagen

時よ止まれ 君は誰よりも美しいから

Verweile doch du bist so schön——

永遠の君に願う 俺を高めへと導いてくれ

Das Ewig—Weibliche zieht uns hinan.

諏訪原ではなく、呼び出された結果ここ新宿の真上で行われる最終決戦。個人としては大歓迎、垂涎ものの素晴らしいものだ。ツアラトウストラとニートまで呼び出される様なのは予想外だがね。加えて言えば、私はマリイの黄昏に世が移ろうとも、獣殿の蠶になつても構わない。勿論永劫の回帰に囚われても、それはそれで素晴らしい事だ。波旬の第六天は許さぬが。

そんなことは置いておいて、今この瞬間を、お決まりの台詞で讃えたい。

「では一つ、皆様至高の歌劇をご覧あれ」

Atziluth——

Atziluth——

「その筋書きはありきたりだが」

Du—sollest——

「役者が良い。至高と信ずる」

Res novae——

「ゆえに、面白くなると思うよ」

D i e s i r a e

A l s o s p r a c h Z a r a t h u s t r a

瞬間、私以外の全ての人間が倒れ伏した。別に薔薇騎士の創造ではないのだから、命に別状はない。

そんなプレッシャーを受け流しながら、私は笑って、嗤って、歓喜のままに叫ぶ。

「ああ、私は今——生きています！」

原作勢が、新たに現れたメテオラ・エスターライヒごとポロポロになっているけど知ったことか。

2度と消えない記憶の所為で、ある意味既知のゲッターに囚われている私にとって、今この瞬間こそが、陳腐な言葉になるが最高の瞬間なのだ。

「ふはは、はははははははははは——」

こんな、原作をぶち壊した状況は、さぞあの神も楽しんでいる事だろう。

「ははははは、はははははははははははははははは——！」

おっと、自己紹介を忘れていた。

私の名前は、水瀬 銀狐。外宇宙から飛来した変態、コズミックストーリーカーこと、カール・クラフトに容姿が極めて似ているだけの、可愛らしい矮小な転生者である。